

東京都市計画沿道地区計画の変更（世田谷区決定）

都市計画世田谷区環七大原・羽根木地区沿道地区計画を次のように変更する。

名 称		世田谷区環七大原・羽根木地区沿道地区計画
位 置 ※		世田谷区大原一丁目、大原二丁目、羽根木一丁目、羽根木二丁目、代田五丁目及び代田六丁目各地内
面 積 ※		約9.2ha(延長約1.14km)
沿道の整備に関する方針	道路交通騒音により生ずる障害の防止に関する方針	東京都市計画道路幹線街路環状第7号線（以下「環七」という。）沿道の建築物の防音構造化に努めるとともに、後背地域へ道路交通騒音が伝わることを防ぐため、環七沿道の建築物の適切な誘導を図る。
	土地利用に関する方針	本地区は、環七沿いには商業業務施設やマンション等が混在して立地しているが、後背地は概ね住宅地である。従って、本地区では沿道と後背地が調和する整備を目標にポケットパーク等公共施設の適切な配置、緑化の推進を図る。 大原交差点の付近では、建築物の共同化など適切な誘導により商業の活性化を図るとともに、後背地では緑化を推進することにより生活環境の改善を図る。旧守山小学校周辺では、ポケットパークの整備、緑化の推進等により教育環境の改善を図る。

沿道地区整備計画	建築物等に関する事項	区 分	敷地が環七に接する建築物等	敷地が環七に接する建築物以外の建築物等
		建築物の沿道整備道路に面する部分の長さの敷地の沿道整備道路に接する部分の長さに対する割合の最低限度	7/10 ただし、都市計画施設の区域内（①, ②, ③, ④）は除く。	—
		建築物の高さの最低限度	環七の路面の中心から5m ただし、都市計画施設の区域内（①, ②, ③, ④）は除く。	—
		建築物の構造に関する遮音上必要な制限	環七の路面の中心からの高さが5m未満の範囲を空隙のない壁が設けられたものとする等、遮音上有効な構造とする。 ただし、都市計画施設の区域内（①, ②, ③, ④）は除く。	—
		建築物の構造に関する防音上必要な制限 ※	住宅、学校、病院その他の静穏を必要とする建築物について、居室部分の閉鎖した際の窓、出入口並びに屋根及び壁等は、防音上有害な空隙のない構造であるとともに、防音上支障がない構造とする。 なお、建築基準法施行令（昭和25年政令第338号）第136条の2の5第1項第16号に定める措置を講ずるものとする。	同左 ただし、③, ④の区域を除く。
		垣又はさくの構造の制限	緑化推進保全区域（A, B, C, D, E, F）にある道路（環七及び東京都市計画道路幹線街路放射第5号線を除く。）又は通路に面した垣・さくは、生垣又はネットフェンス等透視可能な構造とする。 ただし、高さ1m以下の部分又は法令等の制限上やむを得ない場合はこの限りでない。	
	関土す地る利事項に	緑化推進保全区域	A, B, C, D, E, Fの区域において、緑化の推進保全を図る。	

※は知事協議事項

「区域は計画図表示のとおり」

理由：地形地物の変更による用途地域の境界変更に伴い、区域の整合を図るため、沿道地区計画を変更する。